

20～23日、フィラト首相の米国実務訪問

## A. 主な動き

### 1. 内政

- ・19日、ヴォローニン前大統領は、共産党は憲法改正に反対と発言。
- ・19日、キシナウ市は年金生活者及び社会弱者に対し、公共交通機関の優待カードを提供すると発表。

### 2. 沿ドニエストル

#### ロシア軍部隊駐留問題

- ・20日、ギンプ大統領代行は、モルドバ訪問中のカラーシン露外務次官と会談。カラーシン露外務次官は、各当事者間で紛争が最終的に政治的に解決されてはじめてロシア軍部隊を沿ドニエストル地域から撤退させると発言するとともに、ロシア軍部隊をOSCEの民間人監視団に引き継がせる提案は時期尚早で逆効果であるとコメント。
- ・20日、カラーシン露外務次官は、スミルノフ沿ドニエストル「大統領」と会談。カラーシン露外務次官は、沿ドニエストルに駐留するロシア軍部隊について沿ドニエストル紛争の最終解決後に初めて撤収することになると発言。スミルノフ「大統領」は、ロシア軍駐留部隊は沿ドニエストルの平和と安定を守っていると発言。

#### その他

- ・18日、モルドバを訪問中のネステルシュキン露沿ドニエストル問題担当特使は、オシポフ沿ドニエストル問題担当副首相、ヤストレブチャク沿ドニエストル「外相」とそれぞれ会談し、今回の訪問が平和維持活動にあたっての具体的な条件を視察することが目的であると発言。
- ・20日、ダグラスOSCE議員会議団長はティラスポリ及びキシナウを訪問、OSCE議員会議の枠内でキシナウ・ティラスポリ間の対話の促進と援助を目指す旨発言。

### 3. 経済

#### マクロ経済

- ・19日、中央銀行は2010年のインフレ率を5%±1%に抑えるために物価を安定させることが戦略政策と発表。
- ・21日、共産党の社会・経済専門家は光熱費や石油製品の価格上昇及びレイの下落、それらに伴う物価等の上昇により2010年のインフレ率が15-18%となると予測。
- ・21日、ドドン前第一副首相兼経済貿易相は2010年の消費者物価指数が10%程度の伸びとなると発言。また、中央銀行のレイ引き下げ及びインフレ許容を非難。

#### ガス問題

- ・15日、モルドバのロシアに対する天然ガス負債額は、23

億ドルに上り、そのうち20億ドル以上が沿ドニエストルの消費分であるとゲーセフ・モルドバガス社長が発言。

#### その他

- ・18日、2009年1-11月の間に出嫁ぎモルドバ人からモルドバへなされた送金額は8億8090万ドル。うち53.2%が米ドル、41.5%がユーロで5.3%がルーブル。なお、1月の送金額は前月比8.3%減の1億218万ドル。
- ・18日、コサルチウク農業食品産業相は世界銀行、USAID、欧州議会、UNDP、GTZ(ドイツ技術協力公社)等の外国のドナーやパートナーに対して科学研究所、農場、公務員の上級研修への支援を要請。
- ・19日より光熱費が13.9%-29.3%の値上げ。
- ・19日、沿ドニエストルの2009年の生活最低水準は一人あたりおよそ85ドル。
- ・19日、フィラト首相は低所得の3万世帯に新光熱費に対する補助を実施すると発言。
- ・19日、ソロス・モルドバ基金は国民参加による質の高いガバナンスを目指すプログラムのための250万ドルの支援を発表。

### 4. 外政

#### ▼20～23日、フィラト首相の米国実務訪問

- ・バイデン副大統領と会談。米国側はモルドバの欧州統合及び民主化支援を表明。モルドバ側は沿ドニエストル問題における米国の役割の重要性を強調。
- ・22日、国務省において、フィラト首相はミレニアム・チャレンジ(MCC)の2億6200万ドルの供与協定(道路建設、灌漑事業)に署名。
- ・潘基文国連事務総長を表敬。

#### ▼21日、欧州評議会事務総長新特別代表のモルドバ訪問

- ・アブラティエヌ欧州評議会事務総長新特別代表はモルドバを訪問し、ギンプ大統領代行と会談。欧州評議会がモルドバ新政府の優先課題と改革を支援し、ヴェネツィア委員会(欧州評議会憲法担当顧問組織)が憲法改革を支援する用意がある旨表明。
- ・ギンプ大統領代行は大統領選挙に関する現在の制度を改革するために憲法改革の必要性を強調。

#### ▼ルーマニア側が駐モルドバ大使を提案

- ・21日、パコンスキ・ルーマニア外相が駐モルドバ大使(ラズルカ現駐バチカン大使)のアグレマンをモルドバ側に要

請。前任の駐モルドバ・ルーマニア大使はベルソナ・ノン・グラータの宣告を受け2009年4月に離任していた。

## B . その他の動き

---

1 / 18 (月)

・マリヌタ国防相は、アメリカ政府は国防・安全保障分野におけるモルドバとの協力をより高い水準に引き上げることに関心を寄せていると発言。

1 / 19 (火)

・マリヌタ国防相は、2010年の国防省予算は軍隊のニーズの50%しか満たしていないと発言。

1 / 20 (水)

・米シンクタンク(ヘリテージ財団)が実施した経済自由度調

査に置いて、モルドバは179カ国中125位。欧州43国においては40位。

1 / 21 (木)

・マリヌタ国防相とパナヨトヴ駐モルドバ・ブルガリア大使が会談。パナヨトヴ大使は、モルドバとの防衛に関する協力関係を強化する用意が出来ていると発言。

1 / 22 (金)

・マリヌタ国防相は、徴兵された若いモルドバ軍兵士が軍事行動のために海外に派遣されることはないと言。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。

(了)